

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成19年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	デイセンター山びこ
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
評価者	修了者No.H0404012 修了者No.H0404014 修了者No.H0502040 修了者No.H0201025
評価実施期間	2007年7月26日～2008年3月5日

全体の評価講評

詳細はこちらから

特に良いと思う点

- 施設の枠組みにとらわれない生活支援への取り組み
- 自己肯定感や自尊感情を育てる支援をめざしている
- 積み重ねてきたこれまでの支援を見直すユニークなスーパーバイズの試み

さらなる改善が望まれる点

- 職員一人ひとりの働きがいが見いだせる就労環境の充実
- 事業所としての中長期計画の作成
- 暮らしを支える具体的な支援の場を地域の中に実現していくこと

このページの一番上へ

サービス分析結果

詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら - 個別支援計画の策定は「個別支援計画の流れ」として図表化され、手順がわかりやすく示... - 職員は表面的なテクニックや道具によるコミュニケーションだけではなく、利用者と職員... - 体験宿泊のできる法人のショートステイ制度や余暇の外出を助けるガイドヘルパー制度の...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら - 重度の利用者が多いため、その時々状態やモチベーションにより参加する活動の時間や... - 事業所はバリアフリーの環境を整えており、手すり・段差のない室内・エレベーター・風... - 事業所の活動は「作業」「創作」「運動文化」といった分類にあてはまらない、それぞれ...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら - 年に数回の嗜好調査が行われ、利用者や職員の意見は反映されている。栄養バランスを考... - 食事は食堂又は活動室、個人スペースで自由に摂れるようになっている。食事時間は11... - 食堂にはBGMを流しゆったりとした雰囲気を出している。食事を落ち着いて食べるこ...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら 日常生活上の援助として、身体介護を必要とする利用者へは食事介助、排泄介助、歯磨き...	

- ・利用者本人ができることや、やろうとしていることを周囲がやってしまうめよう、先回り...
- ・支援はお世話をすることではなく、利用者が主体的になり自己の表現やエンパワメントを...

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・定期健康診断、耳鼻科検診、歯科検診、内科検診を年1回実施している。利用者の健康状...
- ・服薬については、当日の服薬分は個々の専用ケースに入れて各グループの担当職員が管理...
- ・利用者の体調変化は毎日の連絡帳で家庭と情報交換することで把握している。利用者の個...

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・行事やレクリエーションについてはアンケート調査を実施し、利用者が主体的な参加状態...
- ・周囲に一般住居、社宅、マンションなどが隣接し、日中活動中の音の配慮は常に必要にな...
- ・職員が利用者の意見を言葉で聞くことは難しいが、日常的に触れ合うことの中から気持ち...

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A⁺

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・重度の利用者が多いため家族との連携は重要となっている。利用者本人の意思や希望は家...
- ・利用者の日常の様子は毎日の連絡帳で知らせ、事業所の現況については2ヶ月に1回の定...
- ・緊急時の連絡先は迅速に対応できるように把握しファイルしている。緊急に通院が必要な...

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・法人全体の取り組みとして、地域の情報を収集して利用者に提供するようにしており、市...
- ・市内の体育館、プール、コミュニティセンター、図書館、ボランティアセンター等の施設...
- ・事業所は利用者のことや、事業所の存在をできるだけ多くの人に知ってもらいたいと考え...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

この評価結果の利用者調査は、有効回答者数が2以下であったため、個人情報保護の観点から、各項目の回答数・コメントは公開されていません。

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼コメント

平成19年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	デイセンター山びこ
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
評価者	修了者No.H0404012 修了者No.H0404014 修了者No.H0502040 修了者No.H0201025
評価実施期間	2007年7月26日～2008年3月5日

全体の評価講評

特に良いと思う点

●施設の枠組みにとらわれない生活支援への取り組み

障害の程度が重く個別的な対応が必要な利用者の方々への受け入れが多くなる中でも、利用者本位を重視し、利用者の必要に合わせた支援を続けている。日中活動は一定の成果をあげ、利用者が主体的な面を出し元気になるのに反し、家族の高齢化、生活環境の変化、親の病気・死亡など、家族の負担感や疲労度は増している。利用者個人だけの支援ではなく家族まとめた支援が必要になってきている状況をふまえ、時間外受け入れ、入浴回数の増加、家族の事情を踏まえた宿泊の受け入れ、休日支援等、施設の枠組みにとらわれない支援を継続している。

●自己肯定感や自尊感情を育てる支援をめざしている

本人が出来ることを周囲がやってしまうことにより、ディスエンパワメントの方向に行かぬよう、先回りの支援は行わないことを重視している。同時に訓練・指導に陥らぬよう、技術習得を最終目的とするのではなく、技術があることで達成される暮らしの姿や、本人の希望の実現を、優先する考えをもって支援している。本人が本人らしくいることを大切にし、自己表現、エンパワメントに視点を向けた関わりを大切にしている。強制された訓練や失敗や叱責による自己否定の経験の少ない利用者にとって、自己肯定感や自尊感情を育てる支援をめざしている。

●積み重ねてきたこれまでの支援を見直すユニークなスーパーバイズの試み

今年度から異分野でユニークな活動を行っているスーパーバイザーの導入をし、職員の創造的な支援力の獲得に努めている。施設という箱物の中での福祉の支援を行っているが、今回のスーパーバイザーは箱物の中での行政の福祉を経験し、外に飛び出し、様々な制作活動を通し本来の福祉の支援とはを考え試行してきた人である。ルーティンワークのなかで支援をする者と受ける者の固定した関係に陥りやすい支援を変化させ、いかに利用者の本来の力を引き出すことが出来るのか、スーパーバイザーからの刺激を生かすユニークな活動が始まっている。

✓さらなる改善が望まれる点

●職員一人ひとりの働きがいが見いだせる就労環境の充実

一人ひとりの個別対応を重視しており、対応できる質の高い職員の確保や育成は常に課題となっている。人件費の削減のため、非常勤職員採用が増加しており、期待される役割も年々増大している。職員に対する法人内や施設独自での研修には力を入れているが、支援の基本を共有できるような職員となるには、現状の制度では限界もあるようだ。現在、人事考課制度を再検討しているが、個人別の育成等も視野におき、働きがいの向上、現場を率いる管理者の負担についても実態の把握と分析を行い、個人と組織の目的が一致する地点を見いだしてほしい。

●事業所としての中長期計画の作成

福祉制度の変化の荒波のなかで奮闘し、「山びこ」として利用者・その家族の要望や切実な状況への対応を行っている。自己完結の危険にいつもさらされていることを意識し、他の関係機関や支援者と連携していく動きをすすめている。今後の方向性として通所施設としての支援の枠組みにとらわれずに必要に応じた支援を可能な限り行いたいと願っており、それを事業所独自の中長期計画として明文化し、振り返りの材料とすることが、さらに「山びこ」をパワーアップさせるのではないかと。

●暮らしを支える具体的な支援の場を地域の中に実現していくこと

本事業所は、知的障害者の通所施設として、安定した豊かな地域生活を支援する考えをもち、高齢化する家族もふくめて、利用者の自立支援を追求している。都外施設に入所している利用者を地域が受け入れ、あるいは、現在家族と同居している利用者が自立の一步を踏み出すために、地域の中に具体的な支援の場を実現していくことが求められている。法人や家族会を含めて蓄積されたソフトハードのネットワークを活かし、限られた条件の中から突破口を

見だし、できることから、現実的な取り組みを進めていくパイオニアとしての役割が期待される。

[このページの一番上へ](#)

コメント

- ・事前説明にあたっては、平成19年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。
- ・分析シートは記入例を用意し、効果的、効率的に情報が整理できるような工夫を行っている。
- ・確認根拠資料は、訪問調査の1週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行った上で、訪問調査を実施し、当日は、事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。
- ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成19年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	デイセンター山びこ
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
事業評価実施期間	2007年8月21日～2008年3月5日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら ● 本事業所は、多様な障害者の支援に対応する同一法人の複合施設内にある。事業所活動は... ● 法人の理念の見直しにあわせて、「山びこ」独自の理念の見直しも行っている。事業計画... ● 理事長の元に、経営会議を設置しており、各事業所の施設長が参加して、法人としての意... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 市の障害福祉行政との事例検討会の活動を行っており、ケースワークについての役割も期... ● 障害がある方々との交流と、市民の理解を深める目的で、「むさしのあったかまつり」を... ● 武蔵野氏の障害者支援関係団体が集う事業者連絡会に参加し、他事業者との情報交換や、... 評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら ● 活動に関するアンケートや年度末の支援全般に対するアンケート、家族との個別面談を経... ● 利用者の家族からの要望や苦情。意見など積極的に聞きながら、サービスを今までのサー...	

- ボランティアセンターとの連携・他施設の広報紙の交換・研修の報告など頻繁に情報を集...

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	B
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人では、平成12年度に中長期計画を策定し、支援費制度、自立支援法と制度の大きな... ● 年間のまとめの試案を利用者の家族に提示し、要望・提言などを聞き取り、事業計画表や... ● インシデント・アクシデントレポートの書式を事業所で新たに作成した。どんなに些細な...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	B
【講評】 詳細はこちら ● 昨年度末より、正規職員を対象として、新たな考課制度の導入に取り組んでおり、制度の... ● 法人内部研修や施設内部研修などを行って、職員の質の向上に努めている。また、研修内... ● 昨年度人事考課表を作成し導入したが、バラツキが出てきた為ペンディングしている。休...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人内に蓄積された個人情報あるいは、稼働している情報システムについて、利用者のプ... ● 個人情報保護に関する規程・規則集の中の「社会福祉法人武蔵野個人情報にかかる開示申... ● 個人情報は、措置時代からの利用者の行政のケアワーカーが持っており、支援費制度に...	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら ● 事業所として大切にしていること、支援の基本について、毎朝の職員ミーティングで施設...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 年度末の会議で、現場職員の支援力を向上するために、スーパーバイザーの導入を決め、...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 毎朝の職員ミーティングで、月曜日Aグループ、火曜日Bグループ、水曜日Cグループ、...	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら エコアクションということで、法人内各事業所から担当者を選任し、事務・消耗品の節約...	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら 重症心身障害者のグループで入浴の回数を増やした。また宿泊の支援もおこなっている。...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果



サービス分析結果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成19年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	デイセンター山びこ
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
事業評価実施期間	2007年8月21日～2008年3月5日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供

評点

1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 事業所のパンフレットや契約時に配布する「活動のしおり」は、わかりやすくイラスト入...
- 利用者への情報提供の仕方は、特性を考慮し様々な方法をとっている。絵や文字カードで...
- 広報誌「やっ報」は市役所、コミュニティーセンターなど行政や関連機関に配布している...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

サービスの開始・終了時の対応

評点

1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

A

2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 通所を開始する前に個別面談や家庭訪問(必要に応じて複数回)を行い、利用者・家族と...
- サービス開始時に重要事項説明書の説明と利用者負担金についての同意を得ている。年度...
- サービス利用開始時は対応職員が細切れになることがないようにし、利用者が不安になら...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

個別状況に応じた計画策定・記録

評点

1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

A

2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

A

3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

A

4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 個別活動記録に毎日利用者の様子を記録し、一週間ごとに個別にファイルされグループご...
- 年度末に個別支援計画のまとめを基に個別面談を行い、新たな支援計画を作成している。...
- 各利用者の個別支援計画をはじめとする基礎資料はファイルにまとめ、職員は必要に応じ...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評点

1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

A

2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 法人の個人情報保護規程が策定されており、外部への情報提供に関する承諾は家族から得...
- 日常の支援で利用者が望まないことを強いないということを原則の一つにしている。自分...
- 毎年、利用者・家族にアンケートを実施し、活動に関する希望を取っている。希望にでき...

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

事業所業務の標準化

評点

1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

A

2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

A

3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- 事業に関わる業務分担毎のマニュアルを作成している。また、「活動で気をつけているこ...
- 各グループ毎のグループミーティングは毎日行い一定レベルのサービス提供を心がけてい...

- 職員全体が一定のサービス水準を確保するために職員会議では支援や事業に関するテーマ...

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ● 個別支援計画の策定は「個別支援計画の流れ」として図表化され、手順がわかりやすく示... ● 職員は表面的なテクニックや道具によるコミュニケーションだけではなく、利用者と職員... ● 体験宿泊のできる法人のショートステイ制度や余暇の外出を助けるガイドヘルパー制度の...	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 重度の利用者が多いため、その時々々の状態やモチベーションにより参加する活動の時間や... ● 事業所はバリアフリーの環境を整えており、手すり・段差のない室内・エレベーター・風... ● 事業所の活動は「作業」「創作」「運動文化」といった分類にあてはまらない、それぞれ...	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ● 年に数回の嗜好調査が行われ、利用者や職員の意見は反映されている。栄養バランスを考... ● 食事は食堂又は活動室、個人スペースで自由に摂れるようになっている。食事時間は11... ● 食堂にはBGMを流しゆったりとした雰囲気を出している。食事を落ち着いて食べること...	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 日常生活上の援助として、身体介護を必要とする利用者へは食事介助、排泄介助、歯磨き... ● 利用者本人ができることや、やろうとしていることを周囲がやってみせよう、先回り... ● 支援はお世話をすることではなく、利用者が主体的になり自己の表現やエンパワメントを...	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 定期健康診断、耳鼻科検診、歯科検診、内科検診を年1回実施している。利用者の健康状... ● 服薬については、当日の服薬分は個々の専用ケースに入れて各グループの担当職員が管理... ● 利用者の体調変化は毎日の連絡帳で家庭と情報交換することで把握している。利用者の個...	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 行事やレクリエーションについてはアンケート調査を実施し、利用者が主体的な参加状態... ● 周囲に一般住居、社宅、マンションなどが隣接し、日中活動中の音の配慮は常に必要にな... ● 職員が利用者の意見を言葉で聞くことは難しいが、日常的に触れ合うことの中から気持ち...	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 重度の利用者が多いため家族との連携は重要となっている。利用者本人の意思や希望は家... ● 利用者の日常の様子は毎日の連絡帳で知らせ、事業所の現況については2ヶ月に1回の定... ● 緊急時の連絡先は迅速に対応できるように把握しファイルしている。緊急に通院が必要な...	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 法人全体の取り組みとして、地域の情報を収集して利用者に提供するようにしており、市... ● 市内の体育館、プール、コミュニティセンター、図書館、ボランティアセンター等の施設... ● 事業所は利用者のことや、事業所の存在をできるだけ多くの人に知ってもらいたいと考え...	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成19年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	デイセンター山びこ
評価機関名称	株式会社 地域計画連合
利用者調査実施期間	2007年9月18日～2007年11月1日

調査概要

- **調査対象:** 調査日現在の全利用者のうち、聞き取り可能な利用者を対象とした。年齢は:20歳前半1名、無回答1名であった。／性別は女1名、無回答1名／であった。
- **調査方法:** 聞き取り方式
調査員が個別聞き取りで実施した。事前説明確認書で「アンケート方式」を想定していたが、事業者及び利用者の状況等により、聞き取り調査となった。
- 利用者総数: 41人
- 共通評価項目による調査対象者数: 3人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 2人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 4.9%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

・利用者本人に対する意向把握を重視し、調査員による1対1での聞き取り方式とした。・自閉症や重度の知的障害を抱える利用者の割合が多く、言葉によるコミュニケーション可能な利用者が少なかった。当日、3名の利用者に聞き取りを試みたが、1名は聞き取りが困難であったため、無効の扱いとなった。・聞き取り調査の対象者数が少なかったため、現場の状況を補足的に把握する方法として、事業者と協議の上、場面観察調査を実施した。○場面観察で評価者が感じた事日中活動の支援においては、職員が利用者と同じ目線にたっており、リラックスした雰囲気が感じられる。利用者の個別性への配慮がきめ細かく行われており、職員の利用者への態度は非常に丁寧で、穏やかさがある。食事場面や介助の場面で、利用者の一人ひとりの好みや意向を尊重しており、利用者の状況についての深い洞察や、利用者を理解し、受容している事が感じられる。一方、缶つぶしの活動で床が濡れたままになっている事があったり、緊張が高く行動が激しい利用者に対する支援方法については、今後の改善課題も感じられる。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

本事業所は、多様な障害者の支援に対応する同一法人の複合施設内にある。事業所活動は独自性を保ちつつも、相互の連携により、利用者の活動の可能性を広げている。また、設立の経緯から、武蔵野市の福祉とのつながりが大きく、地域生活支援など、市の福祉行政における中核的な役割も担っている。支援費制度から障害者自立支援法へと激動期を迎える中で、今年度、法人としての中長期の動向を睨み、理念の見直しに着手している。

法人の理念の見直しにあわせて、「山びこ」独自の理念の見直しも行っている。事業計画書にはきちんと明記されているが、組織の再編の検討にも入っており、話し合いが行われている。自立支援法に基づく法の施行に対して、さまざまな福祉のあり方を検討し、自分達の施設にあった支援の方法を模索し、その検討の過程を全職員に資料を作成し、伝えている。

理事長の元に、経営会議を設置しており、各事業所の施設長が参加して、法人としての意志決定を行っている。事業所内では、案件の検討、決定や実行は職員会議→グループミーティング→複数のグループミーティング→リーダー会議→職員会議という手順が決まっており、リーダー会議で決定されて案件は職員会議で周知させている。複数グループミーティングでは他グループからの意見や見方を学び気づきにしている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A	
標準項目	☐	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	☐	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	☐	重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み		

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A	
標準項目	☐	経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	☐	経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み		

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A	
標準項目	☐	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	☐	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	☐	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

市の障害福祉行政との事例検討会の活動を行っており、ケースワークについての役割も期待されている。同法人内の事業所は、高齢者から障害者まで、多岐にわたっており、武蔵野市内に設置されている。こうした現状から、市の地域福祉の推進における大きな社会的責任を担う存在となっている。地域への貢献を模索する中では、家族支援や、事業所の営業力強化など、従来の枠組みにとらわれない取り組みが行われている。施設1階にある喫茶室は、広く市民に開かれ日常的に近隣の住民が集うなど、法人の活動の一端を示す、象徴的な存在となっている。

障害がある方々との交流と、市民の理解を深める目的で、「むさしのあったかまつり」を実行委員とともに主催している。市内関連機関・団体等と協力して企画・運営されるまつりは、地域の人達のより深い理解をえており、障害がある人達にとって住みやすい街になる働きかけも行い、次第に定着してきている。日常の活動では、年間500人程度のボランティアを受け入れ、活動終了後の感想をもらい、次回に活かしている。職員はボランティアセンターの運営委員もつとめ、連携も図っている。

武蔵野市の障害者支援関係団体が集う事業者連絡会に参加し、他事業者との情報交換や、連携を行っている(障害者自立支援協議会のベースとなる動きの一旦を担っている。)障害をある方々の情報交換や、共有を行うことにより、地域で生活する方々を支援していくための、より良い実践につながるようにと願い、積極的に活動している。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み		

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

活動に関するアンケートや年度末の支援全般に対するアンケート、家族との個別面談を経て個別支援計画を作成し、なおかつ、そのつどアンケートをとり、計画の見直しも行っている。

利用者の家族からの要望や苦情。意見など積極的に聞きながら、サービスを今までのサービス内容にとどまらずその幅を広げる方向に動いている。時間外の利用、家族の要望によるショートステイ・山びこホールの学校放課後活動に対する開放など。

ボランティアセンターとの連携・他施設の広報紙の交換・研修の報告など頻繁に情報を集め、今後の事業所の方向性としては福祉業界の方向性を見つめている。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目		苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
		利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
		事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
		利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A	
標準項目		地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
		福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
		事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

法人では、平成12年度に中長期計画を策定し、支援費制度、自立支援法と制度の大きな変更が相次ぐ中で、新たな中長期計画の方向を模索している段階となっている。現在、法人で各施設長をメンバーとするワーキングチームを編成し、検討を行っている。多様な事業所が同一の建物に複合している強みを活かし、積極的に事業所の中長期計画案を打ち出していく姿勢を期待したい。

年間のまとめの試案を利用者の家族に提示し、要望・提言などを聞き取り、事業計画表や年間のまとめを策定し、公表・提示している。

インシデント・アクシデントレポートの書式を事業所で新たに作成した。どんなに些細な事例でも率先して書き込むよう指導し、その情報を全職員で共有するように職員会議等で報告し、事故防止に努めている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	B	
標準項目	×	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み		

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

昨年度末より、正規職員を対象として、新たな考課制度の導入に取り組んでおり、制度の定着、評価報酬との連動に向けて、考課者講習等を実施している模索段階にある。事業所の現場は、正規職員のみならず、多数の臨時職員や嘱託職員によっても支えられているのが現状である。多くの職員のやりがいや、モチベーションの向上を図る上では、正規職員と臨時職員等との人事制度や評価体系上の位置づけについての見直しや再検討を行い、現場に必要な人材を確保する仕組みが必要とされている。

法人内部研修や施設内部研修などを行って、職員の質の向上に努めている。また、研修内容を報告書として提出し、職員会議にて研修に参加した職員が講師役として発表し、質疑応答を行っている。

昨年度人事考課表を作成し導入したが、バラツキが出てきた為ペンディングしている。休憩時間も含め職員の就業状況を把握し、職員との面接シートで意識の把握に努めているが、正規職員の勤務量が増加してきており、非常勤職員に対する評価基準も必須になっている。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	☐ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	☐ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	☐ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	☐ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	☒ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	☒ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	☐ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	☐ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	☐ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	☐ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	☐ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	☒ 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	☐ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	☐ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	☐ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人内に蓄積された個人情報あるいは、稼働している情報システムについて、利用者のプライバシーを確保するため、法人情報セキュリティ対策の統一かつ、基本的な方針を規定する取り扱い規定を定め、法人全体で運用を行っている。

個人情報保護に関する規程・規則集の中の「社会福祉法人武蔵野個人情報にかかる開示申請等に関する規則」で明示している。また、情報セキュリティ対策の体制を作った。職員にIT担当を作り、定期的に更新している。情報の保護の為、パソコンは最終時間にはロッカーに収めカギを閉めている。

個人情報は、措置時代からの利用者の行政のケアワーカーが持っており、支援費制度に変わってから、その情報が伝わってこなくなった。色々な部署の連携のなかで支援が行われてきているので、個人情報の整理や管理のあり方が問われている。「山びこ」として、支援の為に利用者の情報をどう集めるのかが課題となっている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
		収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
		保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み		

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A	
標準項目		事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
		個人情報の保護に関する規定を明示している
		開示請求に対する対応方法を明示している
		個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	事業所として大切にしていること、支援の基本について、毎朝の職員ミーティングで施設長自らが現場の状況に即して話しをする時間を設けている。支援の原則はより細かく丁寧に話しをし、職員間で周知されている。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	年度末の会議で、現場職員の支援力を向上するために、スーパーバイザーの導入を決め、月一回の研修を行っている。グループ単位で活動の見直しや利用者主体の活動について着手している。スーパーバイザーとのやりとりを通して職員は新たな視点を与えられたり、日常の支援について見直す機会になっている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	毎朝の職員ミーティングで、月曜日Aグループ、火曜日Bグループ、水曜日Cグループ、木曜日Dグループが、その前日までの1週間の利用者の状況と、支援の経過を報告する時間を持っている。その他に、毎週金曜日の同ミーティングでは、一人の利用者をとりあげて話をするミニケース会議を開催している。この会議を週1回実施することにより、1年間で全員の利用者の状況や支援の方向性について、確認・共有することができる仕組みができた。また、グループを越えて活動したり、職員が他グループに応援に入る時、グループ間の連携などにもプラスに働いている。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	エコアクションということで、法人内各事業所から担当者を選任し、事務・消耗品の節約・ごみの分別・電気水道の節約等を進めている。大幅に収支が改善されるまでには至っていないが、職員の意識は変わり、より良い方向へ向かっている。施設長会議では数字の提示があり、具体的な動きになっている。事業所費の8割が人件費であり、重度障害者の通所施設が市内に山びこしかないという状況であるため、法人と市の連携がますます大事になってきている。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

--	--

評点	A
改善の成果	重症心身障害者のグループで入浴の回数を増やした。また宿泊の支援もおこなっている。両親の高齢化や親の病気・死亡などで家族の負担が重くなっている為、個別に対応する必要ができた。家族の負担の軽減につながっている。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

事業所のパンフレットや契約時に配布する「活動のしおり」は、わかりやすくイラスト入りで説明している。また、個人の活動予定表を前月に配布し、事前に活動の内容を理解することで安心して活動に取り組めるようにしている。広報誌は年4回発行している。

利用者への情報提供の仕方は、特性を考慮し様々な方法をとっている。絵や文字カードで円滑に理解できる場合と、混乱や緊張をきたす場合があり、注意をはらう必要がある。職員は情報提供の時期、方法について個別の対応をおこない、利用者が不安を抱かず安定した状況で活動ができるよう配慮して伝えている。

広報誌「やっ報」は市役所、コミュニティーセンターなど行政や関連機関に配布している。また、日常の創作活動で生み出された作品をギャラリーなどで、展示販売する展示会を年に2、3回実施している。その展示会等の案内等は随時配布している。見学、実習は利用者支援に支障のない限り受け入れている。施設長と主任が窓口になり希望者の個別の要望に応じて活動日の時間内で対応している。見学者の対応マニュアルは整備されてないが、サービス水準の一定化のために今後必要であると事業所は考えている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A	
標準項目		利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
		利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
		事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
		利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

通所を開始する前に個別面談や家庭訪問(必要に応じて複数回)を行い、利用者・家族と話し合いを持ち説明をしている。利用者は養護学校在学中に事業所での実習を経て通所に至る場合が多いが、実際に通所が始まってから1日の流れがわかるように説明することのほうが理解しやすいため、慣れるまでの過程を丁寧にし心の負担を軽減することを心がけている。

サービス開始時に重要事項説明書の説明と利用者負担金についての同意を得ている。年度初めの家族会では事業計画書の説明と負担金等の変更がある場合は説明と同意を得ている。また、利用者・家族の意向は面談記録に記録し、日中活動の内容に反映させている。利用者の基礎情報はフェイスシートに記録され、個別支援計画の見直しの時期に書き換えを行っている。

サービス利用開始時は対応職員が細切れになることがないようにし、利用者が不安にならないよう関係作りに配慮している。部屋のレイアウトは新利用者が過ごしやすく配慮して臨機応変に変更しており、活動内容は本人の希望や課題に応じたものをプログラムし説明している。サービス終了時は、終結記録を作成し、移動先機関に支援のまとめ等の情報提供を行い、ケースにより移動先に担当職員が同行することも行っている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評
事業評価結果
組織マネジメント分析結果
サービス分析結果
利用者調査結果
事業者のコメント
評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録

個別状況に応じた計画策定・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

個別活動記録に毎日利用者の様子を記録し、一週間ごとに個別にファイルされグループごとに保管している。毎朝の職員全体ミーティング、毎夕のグループミーティングで利用者の様子を把握し、必要に応じて協議し、翌日からの支援に役立てている。家族面談や、家族との連絡を通し利用者のニーズを汲み上げ、個別支援計画書モニタリング書式に追記、記載し支援内容を見直している。記録類の書式は統一されているが、細かい観察による文章表現が必要であり、表現のバラつきが出ることを補正する為にマニュアルで標準化している。

年度末に個別支援計画のまとめを基に個別面談を行い、新たな支援計画を作成している。この計画は同意を得た時点から実施し、修正が必要な場合には同意が得られるまで修正する。利用者には説明だけでは理解が難しいため、試行期間をもうけて実施し様子を見るようにしている。また、本人が望まないことを強いることは禁止している。年度の間中期（10月）を見直しの時期に定め、モニタリングマニュアルに沿って見直しを行っている。

各利用者の個別支援計画をはじめとする基礎資料はファイルにまとめ、職員は必要に応じいつでも閲覧できるようになっている。日々の個別活動記録と送りノートがあり、状態の変化等の必要な情報は記入され、確認することで共有できている。職員間のコミュニケーションは円滑で口頭での情報交換は常にされている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	☐ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	☐ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	☐ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	☐ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	☐ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	☐ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	☐ 計画を緊急に変更する場合のしきりを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	☐ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	☐ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

--	--

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人の個人情報保護規程が策定されており、外部への情報提供に関する承諾は家族から得ている。日常支援の中でのプライバシーへの配慮として、見学者からの影響を少なくするため利用者の状態を考慮した見学コースを設定する場合もある。排泄・更衣等の介助は同性介助を完全実施している。排泄介助では同性でも共にトイレに入るのは必要最小限にしている。羞恥心ということに限らず利用者のいる前で利用者抜き話をしないということを原則にしている。

日常の支援で利用者が望まないことを強いないということを原則の一つにしている。自分の気持ちを表現することが難しい利用者が多く、表に出た行動の奥にある思いを汲み取って支援をすることの重要性をよく認識し、職員研修で勉強し実践している。先回りして支援してしまうのではなく、利用者の気持ちに寄り添い、意思表示を待つことを大切にしている。また、ミーティングで利用者に対する行動で気づいた点は職員間で指摘しあっている。

毎年、利用者・家族にアンケートを実施し、活動に関する希望を取っている。希望にできるだけ対応していこうとしているが、利用者の家庭で見せる表情と事業所で見せる様子が違う場合があり、意見の食い違いがあることがある。家族へ日中活動で見せる様子を説明したり、家での様子を再確認し、本人に対する見方や考え方を共有することに努力しながら、利用者の新たな側面を伸ばしていこうと支援している。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	○ 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている
	○ 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	○ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	○ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	○ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化

事業所業務の標準化

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

事業に関わる業務分担毎のマニュアルを作成している。また、「活動で気をつけていること」「業務の基本的なこと」という職員の利用者への対応の基本マニュアルを毎年作成している。個別支援計画書と年間まとめ、モニタリングの書き方マニュアルを作成したことで適切に必要なことが記述でき標準化することができた。「支援の手引き確認事項」では、手引書の確認、保管、更新などについての手続きを記載している。

各グループ毎のグループミーティングは毎日行い一定レベルのサービス提供を心がけている。2グループ合同ミーティングではグループを超えた支援や工夫を話し合っている。また、全体職員会議で現場の職員の意見が集約され支援や活動に反映されている。

職員全体が一定のサービス水準を確保するために職員会議では支援や事業に関するテーマの資料を配布し確認している。また、外部研修や法人内研修に参加し、研修報告書を作成し職員会議で報告している。職員はチームを作り勉強会を行い、職員会議で発表している。利用者の安全性に配慮した支援ができるように「インシデント・アクシデントレポート」を作成しどんな些細なことでも報告し職員間で周知事故防止、安全確保に努めている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	☐ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	☐ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	☐ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	☐ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	☐ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	☐ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	☐ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施



サービスの実施



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

個別支援計画の策定は「個別支援計画の流れ」として図表化され、手順がわかりやすく示されている。毎年1,2月に一年のまとめの仮版を作成し、利用者・家族に渡し、フェイスシートの更新も同時に行い、個別面談で話し合い及び修正をし一年のまとめ確定版を作成する。一年のまとめを元に新しい個別支援計画を作成し、利用者・家族の確認の上で実施となる。

職員は表面的なテクニックや道具によるコミュニケーションだけではなく、利用者と職員との互いの信頼・安心感・安全感をベースにした良い関係の中でのやり取りによるコミュニケーションを大切にした支援をしている。そのための支援者のあり方や立ち居振る舞いについては様々な機会を通して確認・共有している。また、利用者本人が自らの意思を表現できるようにする支援、思いを汲み取る支援を心がけ、先回りした支援はせず意思の表出を待つことを大切にしている。

体験宿泊のできる法人のショートステイ制度や余暇の外出を助けるガイドヘルパー制度の情報を提供し、自立に向けた体験を重ねる取り組みを行っている。また、事業所の活動である外出、昼食作りは様々な場へ行き、多様な体験をすることで自立的な部分が育つように支援している。

評点	A
標準項目	○ 個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	○ 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	○ 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	○ 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

重度の利用者が多いため、その時々の状態やモチベーションにより参加する活動の時間や量、メニューは臨機応変に対応している。利用者の表情・表現を読み取り、思いを大切に活動は選ぶようにしている。また、利用者に関わせた個別の活動を新たに作るなど無理強いをすることは決してせず、その日の状態に応じたメニューの提供をしている。

事業所はバリアフリーの環境を整えており、手すり・段差のない室内・エレベーター・風呂場の洗い台・トイレを整備している。障害特性に配慮し、視覚や聴覚に敏感な利用者のために個別の作業机を壁に向かって配置しパーテーションで区切り、視覚刺激の少ない環境、静かな環境を用意し活動しやすくしている。

事業所の活動は「作業」「創作」「運動文化」といった分類にあてはまらない、それぞれが好きなことをして過ごす時間やのんびり何もしない時間が4割近くになっている。事業所は「人の暮らしやペースということに視点を置けば、この時間は、障害がある人たちの特徴と、それに対応するために必要な支援の本質に関わる時間として位置づけられる。支援は個々の必要から始まり、そこへ応えることによってしか成立しない」との考えのもとで支援している。その人らしさを大切に活動の提供であると評価される。

評点	A
標準項目	○ 日中活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	○ 利用者が活動しやすい環境を整えている
	○ 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み	

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

年に数回の嗜好調査が行われ、利用者や職員の意見は反映されている。栄養バランスを考えた献立であり、季節に応じた行事食もありバラエティーに富んだ給食提供に努力している。事業所では食と医療に関してのミーティングを月1回栄養士、看護師とともに行っており、利用者の個別の状況について情報提供している。給食出席表で特別食と食事形態、検査簿でメニューごとの食事量、食事の状況について毎日記録し把握している。

食事は食堂又は活動室、個人スペースで自由に摂れるようになっている。食事時間は11:30～13:00の中で利用者の状況やペースに応じて食べられるようになっている。利用者の状態に応じて特別食器の使用ができるようになっている。

食堂にはBGMを流しゆったりとした雰囲気を出している。食事を落ち着いて食べることができるよう座席配置に気を配り食事場所や食事環境を調整し、職員が付き添うなどの対応もしている。周囲の人や物音が気になり食事に集中できない利用者は個別スペースで食べることもできるように配慮している。

評点	A	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

日常生活上の援助として、身体介護を必要とする利用者へは食事介助、排泄介助、歯磨き介助、一部入浴介助を行っている。訪問美容師によるヘアカットも希望に応じて行い、整容支援は職員が利用者に合わせて行っている。支援の内容や関わり方は個々によって異なるが、利用者の様子を支援担当者間で日々情報交換し、支援の方向性に偏りが生じないよう確認合っている。

利用者本人ができることや、やろうとしていることを周囲がやってしまうぬよう、先回りの支援や至れり尽くせりの支援は、利用者にとって必ずしもプラスに働くとは限らないことを職員間で確認している。ADL自立に向けて熱心な訓練や指導ばかりに時間を費やすことのないように注意し、利用者の状況を考え、今必要なこと、大切なことは何かを常に考えて支援している。

支援はお世話をすることではなく、利用者が主体的になり自己の表現やエンパワメントを発揮できるようにしていくことだと事業所は考えている。同年齢、同世代を生きている人たちのあたり前の生活や暮らし方に近づけていけるよう支援していくことが必要と考え、職員間で共通の課題としている。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

定期健康診断、耳鼻科検診、歯科検診、内科検診を年1回実施している。利用者の健康状態は看護師とグループ職員で把握し共有している。精神科、内科、整形外科の嘱託医が月1回法人の医務室に来訪し、家族や利用者の相談に応じている。必要に応じて病院の紹介をし、家族だけでは通院及び受診が難しい場合は職員が付き添うことも可能にしている。

服薬については、当日の服薬分は個々の専用ケースに入れて各グループの担当職員が管理し、確実に飲んだことを確認している。年に1回服薬状況の調査を家族に行い、種類、量、飲み方、投与の仕方等について詳しく聞いてい

る。同時に緊急事態への対応として、3日分の予備薬を預かり利用者全員分を職員室で一括管理している。

利用者の体調変化は毎日の連絡帳で家庭と情報交換することで把握している。利用者の個別の身体状況、通院先、主治医、連絡先の情報は一括ファイルされ急変や、発作時の対応が円滑にできるようになっている。家族の緊急連絡先は一括ファイルに明記され、発作が重積する場合や大きな怪我をした場合など速やかに連絡がとれるようにしている。

評点	A	
標準項目		健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
		必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
		服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
		利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

行事やレクリエーションについてはアンケート調査を実施し、利用者が主体的な参加状態になるよう個々の希望やペースに合わせた計画をしている。年に数回、活動終了後や休日の余暇の取り組みも家族と利用者の意向を重視して様々な活動が計画されている。障害の重い利用者は行動範囲が狭まれ、余暇時間の過ごし方の質は低下しがちである。家族の負担の軽減、利用者の生活の質の向上のための取り組みとして評価される。

周囲に一般住居、社宅、マンションなどが隣接し、日中活動中の音の配慮は常に必要なになっている。窓は1年中開け放すことはできないため、換気扇はこまめに使用し換気に配慮している。活動部屋は利用者の障害特性に応じてパーティションで区切り個別のスペースを設け刺激を少なくし、作業に集中できるように工夫している。毎年、グループの再編にともない、必要に応じて部屋のレイアウトの変更を行っている。

職員が利用者の意見を言葉で聞くことは難しいが、日常的に触れ合うことの中から気持ちを汲み取るようにしている。また、家族からの意見や希望をアンケートで聞き、利用者が主体となり日々の生活が楽しく快適に過ごせるよう気配りしている。

評点	A	
標準項目		行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
		室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
		日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
		利用者等が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
		行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

重度の利用者が多いため家族との連携は重要となっている。利用者本人の意思や希望は家族がよりの確に汲み取りやすい。家族の書いた連絡帳や、送迎時の立ち話などから利用者の意思を伝え聞き、支援のまともに盛り込み支援計画につなげている。また、面談等でも利用者及び家族の希望として記録している。

利用者の日常の様子は毎日の連絡帳で知らせ、事業所の現況については2ヶ月に1回の定例全体家族会で報告している。また、適宜面談や家庭訪問、電話連絡で家族と連携を取り合うしくみはできている。広報誌には事業所での活動の様子を伝えるコーナーを設け、日常的な活動、旅行や行事での利用者の様子を記載している。

緊急時の連絡先は迅速に対応できるように把握しファイルしている。緊急に通院が必要な場合には適切に対応する旨の文章を契約書に盛り込んでいる。重度の利用者が多く、家族の負担が大きいことを事業所は認識しており、家族への支援に力を入れている。家族から希望があれば、利用者の対応に慣れている職員が歯科などへの通院に付き添うこともある。家族の都合で送迎時間を早くまたは遅くすることも可能にしている。

評点	A ⁺	
標準項目	○	家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○	利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○	必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	・重度の利用者が多く、長年の介護で家族は高齢化し疲弊している現実がある。安定した豊かな地域生活の支援を理念としてもっており、通所更生施設の枠を超えた支援に踏み込んでいる。ショートステイを利用する場合には、利用者の障害特性をよく理解した通所施設の職員が共に宿泊することを行うなど、利用者の情緒の負担を軽減し、安心と安定した宿泊ができるようしている。また、家族の状況で日中活動終了後でも希望により預かり、入浴、夕食等を済ませ夜間に送り届けることも必要に応じて行っている。	

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

法人全体の取り組みとして、地域の情報を収集して利用者に提供するようにしており、市内の他の事業所からのお知らせ、研修のお知らせ等を利用者に配布している。事業所の建物の玄関には地域情報誌、他の事業所広報誌、パンフレットなどが置かれ、利用者が必要に応じて手に取り見る事ができるようになっている。

市内の体育館、プール、コミュニティセンター、図書館、ボランティアセンター等の施設を利用した活動を日中活動に取り入れている。また、高齢者センターが作る配食サービスのお弁当を定期的に高齢者宅へ届けるボランティアをし、地域との交流や、貢献の体験ができるようにしている。

事業所は利用者のことや、事業所の存在をできるだけ多くの人に知ってもらいたいと考え、地域資源を有効に活用し活動を展開している。地域の酒店や近隣のマンションの管理人の理解を得て協力をお願いすることで、アルミ缶の収集の効率化、大量入手を果たしている。また、月1回のフラダンス愛好会との活動ではダンスを通じた交流をしている。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.